

AXIS Sensor Metrics Dashboard

ユーザーマニュアル

AXIS Sensor Metrics Dashboard

目次

バージョン情報	3
サポートされているセンサー	3
開始する	4
アプリケーションのダウンロードとインストール	4
アプリケーションの設定	5
AXIS Sensor Metrics Dashboardにデータソースを追加する	5
データファイルをダウンロードする	5
データソースを削除する	5
センサーの接続	6
シリアルModbus データソースを追加する	7
GPSデータソースの追加	8
イベント管理でセンサーデータを使用する	9

AXIS Sensor Metrics Dashboard

バージョン情報

バージョン情報

AXIS Sensor Metrics Dashboardを使用すると、装置に接続されているセンサーから構造化された方法でデータを収集し、保存できます。

サポートされている装置のリストは、axis.comにある製品ページで確認できます。

サポートされているセンサー

現在サポートされているセンサーのリスト:

- Axis内蔵加速度センサー。
- RS232シリアルポートモードを使用する衛星ナビゲーションシステム。
- IPまたはRS485シリアルポートモードを使用するすべてのシングルレジスタデータホルダーModbus装置。

注

使用するシリアルポートモードを選択する必要があります。

Modbusデータソースは1つのレジスタからのみ読み取ります。より多くのレジスタにアクセスするには、さらにデータソースを追加します。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

開始する

開始する

アプリケーションのダウンロードとインストール

アプリケーションをインストールするには、*AXIS Sensor Metric Dashboard*の製品ページにアクセスし、最新バージョンをダウンロードします。アプリケーションをインストールするカメラにログインし、以下の手順に従います。

1. **[Apps] (アプリ)**に移動します。
2. **[Add app (アプリの追加)]**をクリックします。
3. ダウンロードフォルダー内のファイルを選択します。
4. **[インストール]**をクリックします。
5. アプリを起動すると、アプリがアクティブ化されます。

注

アプリケーションをアップグレードするには、新しいバージョンをインストールするだけです。以前のバージョンをアンインストールする必要はありません。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

アプリケーションの設定

アプリケーションの設定

AXIS Sensor Metrics Dashboardにデータソースを追加する

1. 装置のインターフェースにログインします。
2. [Apps] (アプリ) に移動します。
3. **AXIS Sensor Metrics Dashboard** に移動し、[Open (開く)] をクリックします。
4. [Data sources (データソース)] に移動します。
5. [+ Add data source (データソースの追加)] をクリックします。
6. ソースの名前を入力します。
7. ドロップダウンメニューでタイプを選択します。
8. タイプ固有の設定を行います。

データファイルをダウンロードする

収集したセンサーメトリックデータをファイルにダウンロードし、Microsoft® Excelなどのアプリケーションでより便利に使用できます。ファイル形式はCSVです。

1. [Data files (データファイル)] に移動します。
2. ダウンロードするファイルを選択します。
3. ファイル名の横にあるダウンロードアイコンをクリックします。

ファイルサイズによっては、ダウンロードに時間がかかる場合があります。

注

経度と緯度のGPSデータ列はラジアンで表示されます。

データソースを削除する

不要になったセンサーメトリックデータソースを削除することもできます。そのソースからのデータは収集されなくなりますが、そのソースから保存されたデータには影響しません。

1. [Sources (ソース)] に移動します。
2. 削除するソースのメニューボタンをクリックします。
3. ドロップダウンメニューで [Remove (削除)] を選択します。
4. [はい] をクリックして確認します。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

センサーの接続

センサーの接続

ネットワークまたはシリアルポートを使用して、センサーをメインユニットに接続できます。

Modbus over IP:

センサーをカメラと同じWi-Fiネットワークに接続します。必ずカメラと同じサブネット内のIPアドレスを割り当ててください。

シリアル経由のModbus:

Modbusシリアル (RS485) 装置をカメラのシリアルポートに接続します。F9114/F9111シリアルポートのピン配置の説明は *F9114ユーザーマニュアル* に記載されています。

GPS:

GPS (RS232) をカメラのシリアルポートの正しいピンに接続します。F9114/F9111シリアルポートのピン配置の説明は *F9111ユーザーマニュアル* に記載されています。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

シリアルModbusデータソースを追加する

シリアルModbusデータソースを追加する

この使用例では、シリアル接続を介してModbusデータソースを追加します。

1. [+ Add Data (データの追加)] をクリックします。
2. ソースの名前を入力します。
3. [Type (タイプ)] ドロップダウンメニューで [Modbus over Serial (シリアル経由のModbus)] を選択します。
4. [Current serial port configuration on main unit (メインユニットの現在のシリアルポート設定)] リンクをクリックして、Modbus装置の要件に一致するようにシリアルポートを設定します。
5. アプリケーションに戻り、[Device ID (デバイスID)] を設定します。必要に応じて、Modbusベンダーのマニュアルを参照してください。
6. 読み取り元の [Register (レジスタ)] を設定します。通常、これはベンダーのマニュアルにも記載されています。
7. [Scaling (スケーリング)] と [Offset (オフセット)] を指定します。これを使用して、センサーデータの測定単位を変換できます。
8. [Test read (テスト読み取り)] をクリックして、どのセンサー値が読み取られるかを確認します。これは、装置が正しく設定され、配線されていることを確認する簡単な方法です。
9. [Sample time (サンプル時間)] を設定し、時間の単位を選択します。
10. [Retention time (保存期間)] を設定します。保存期間には、作成されたデータファイルがSDカード上に保持される期間を指定します。指定した期間が経過すると、それらのファイルは自動的に削除されます。
11. [追加] をクリックします。
12. [Start (開始)] をクリックして、データソースからの読み取りを開始します。

注

[Write to Modbus device (Modbus デバイスに書き込み)] セクションで、特定のレジスタの値を変更できます。たとえば、Modbusセンサーのボーレートを変更できます。別の使用例としては、同一の装置が複数ある場合に、それらの装置が並列に通信できるようにするために、それらの装置に異なる装置IDを割り当てます。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

GPSデータソースの追加

GPSデータソースの追加

この使用例では、RS232シリアル接続を介して接続されたGPS装置を追加します。

1. [+ Add Data source (データソースの追加)] をクリックします。
2. ソースの名前を入力します。
3. [Type (タイプ)] ドロップダウンメニューで [Satellite navigation (GPS) (衛星ナビゲーション (GPS))] を選択します。
4. [Current serial port configuration on main unit (メインユニットの現在のシリアルポート設定)] リンクをクリックし、RS232 GPS デバイスの要件に合わせてカメラのシリアルポートを設定します。必要に応じて、GPSベンダーのマニュアルを参照してください。
5. アプリケーションに戻り、[Retention time (保存期間)] を設定します。保存期間には、作成されたデータファイルがSDカード上に保持される期間を指定します。指定した期間が経過すると、それらのファイルは自動的に削除されます。
6. [追加] をクリックします。
7. [Start (開始)] をクリックして、データソースからの読み取りを開始します。

イベントのログ記録を有効にする (オプション):

1. データソース設定に移動します。
2. 速度イベント機能を有効にするには、[Speed event (速度イベント)] をオンに切り替えます。
3. 適切な閾値を選択します。
4. イベントをルールの条件として使用するには、「」の手順7~14を実行します。

注

GPSデータソースは、シリアルポートモードがRS232に設定されている場合にのみ機能します。RS485で接続されたGPSの使用はサポートされていません。

AXIS Sensor Metrics Dashboard

イベント管理でセンサーデータを使用する

イベント管理でセンサーデータを使用する

この使用例では、装置の加速度センサーからのデータに基づいてLEDを点滅させます。

装置のWebインターフェースでアプリに移動します。

1. [Sources (ソース)] に移動します。
2. [Accelerometer (加速度センサー)] に移動し、[...] メニューをクリックします。
3. ドロップダウンメニューで [Edit (編集)] を選択します。
4. [Shock event (衝撃イベント)] を有効にします。
5. [Shock trigger level (衝撃トリガーレベル)] を、超えるとイベントがトリガーされる閾値に設定します。
6. [保存] をクリックします。
7. [System > Events (システム > イベント)] に移動します。
8. [+Add a rule (ルールの追加)] をクリックします。
9. ルールの名前を入力します。
10. [Condition (条件)] で、ドロップダウンメニューから [AXIS Sensor Metrics Dashboard: Shock (AXIS Sensor Metrics Dashboard: 衝撃)] を選択します。
11. [Action (アクション)] で、[Flash status LED (ステータスLEDの点滅)] を選択します。
12. 色を選択します。
13. 点滅の持続時間を選択します。
14. [保存] をクリックします。

